

皆さんに希望を託して



理工学部長

かざま
風間

しげお
重雄

この春卒業する皆さんにとって、理工学部生としての学業の道は決してたやすいものではなかったと思います。習得しなければならぬ科目のむつかしさに逃げ出したくなったこともあったことでしょう。しかしいま、皆さんが新たなステップへの第一歩を踏み出すにあたり、ここよりお祝いしたいと思います。

この4年間、日本もまた困難な道歩んできました。ちょうど皆さんが大学生活の第一歩を始めた年の秋、世界でもあまり例のない大事故が日本で発生しました。東海村の核燃料加工会社「JCO」東海事業所における臨界（核連鎖分裂）事故です。物理学の成果である核エネルギーの解放によって人類が得た莫大なエネルギーが、原子爆弾でも原子力発電所でもなく、ふつうの市民社会のまっただ中で放出されたのです。あまりにもコストを重視した大

変ずさんな作業工程のもたらした事故により多数の市民が被爆し、二人の現場作業者のいのちが奪われました。この事故の責任を問う裁判においてJCOの複数の管理責任者と企業に対する有罪判決が、奇しくも皆さんが卒業するこの3月に下されました。

科学といい、技術といい、すべて人間の知的好奇心をその源とします。人間はつねに、自分はどこから来たのか、これからどこに行くのかという根源的な問いを抱いています。その問いそのものが、核エネルギーを解放させ、宇宙開発に乗り出す原動力になってきました。これから皆さんが歩む道は様々だと思います。しかし、大学で学んだ科学技術の基礎・基本は、人類社会の永続的な平和共存のためにこそ使われるべきものであることを、理工学部を卒業するに際してあらためてここに刻んでいただきたいと思います。